

# 決算説明資料

2022年度第2四半期決算概況

2022年11月1日



### **(注意事項)**

本資料に掲載されている住友化学の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しです。これらの情報は、現在入手可能な情報から得られた情報にもとづき算出したものであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等に重大な影響を与えうる重要な要因としては、住友化学の事業領域をとりまく経済情勢、市場における住友化学の製品に対する需要動向、競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場において住友化学が引き続き顧客に受け入れられる製品を提供できる能力、為替レートの変動などがあります。但し、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。

## I.2022年度第2四半期決算

2022年度上期 事業環境	4
連結業績概要（対前年同期実績）	5
セグメント別売上収益	6
セグメント別コア営業利益	7
コア営業利益増減分析（セグメント別）	8
非経常項目内訳	13
連結財政状態計算書	14
連結キャッシュ・フロー	15

## II.2022年度予想

2022年度下期 事業環境見通し	17
業績予想修正（通期）	18
セグメント別売上収益・ コア営業利益予想（通期）	19

## (参考資料)

設備投資／減価償却費／研究費／期末人員	21
セグメント別設備投資	22
セグメント別減価償却費	23
セグメント別研究費	24
セグメント別売上収益（四半期推移）	25
セグメント別コア営業利益（四半期推移）	26
セグメント別売上収益増減分析	27
主要グループ会社業績動向	30
地域別農薬売上収益	31

# I . 2022年度第2四半期決算

## 経済情勢

- **為替の円安進行**により、輸出や海外事業における採算は改善
- 一方、ウクライナ危機やインフレの進行により**原燃料価格の高騰**が業績を圧迫

## 事業環境

石化・原料市況	川下需要は弱く、石油化学製品市況は低迷 一方、石油精製製品の需給ひっ迫によりラービグの上期業績は好調	
自動車	半導体不足や中国ロックダウン影響により、自動車の減産が続く	
ディスプレイ	巣ごもり需要の剥落やインフレによる消費マインドの減退により、パネル需要は大きく減少	
半導体	市場拡大に伴い堅調な需要が継続	
農薬	堅調な農薬需要に加え、南米における売価上昇が大きく貢献	
メチオニン	市況は上昇したが、それ以上に原燃料価格も上昇	
医薬品	ラソーダの販売は堅調に推移	

# 連結業績概要 (対前年同期実績)

5

単位:億円

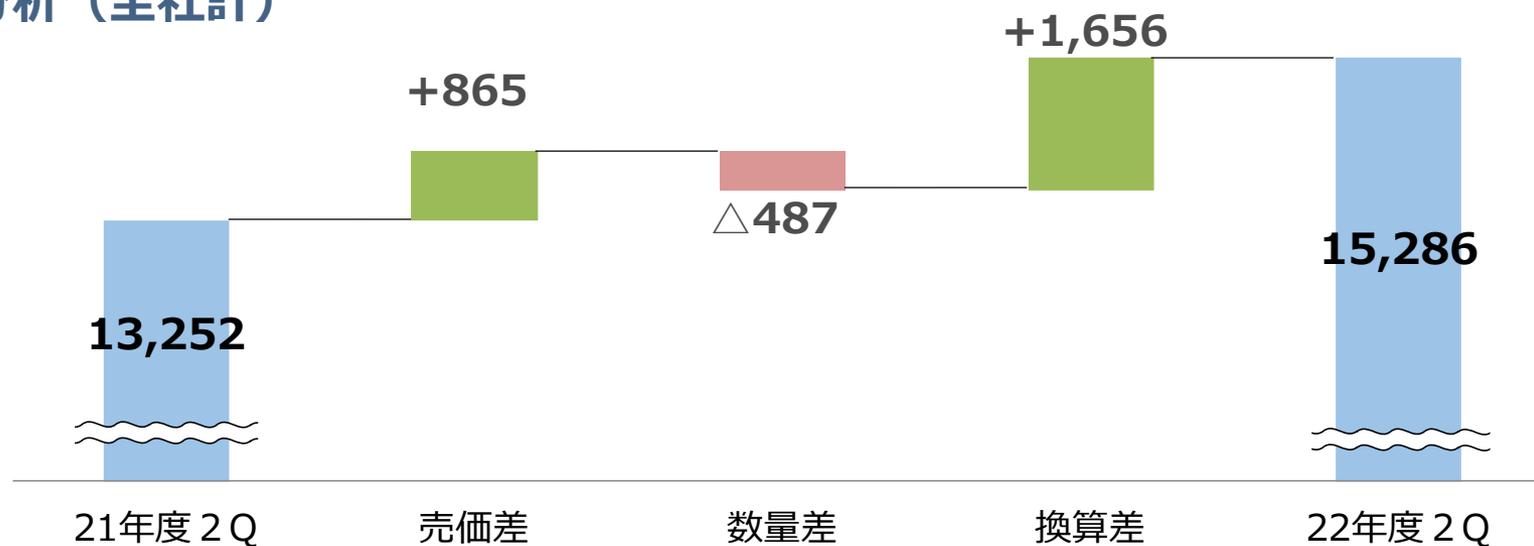
	21年度 2Q	22年度 2Q	増減	増減率
売上収益	13,252	<b>15,286</b>	2,034	15.3%
コア営業利益	1,489	<b>1,156</b>	△333	△22.3%
(うち持分法による投資損益)	(272)	<b>(299)</b>	(26)	-
非経常項目	△46	△ <b>551</b>	△504	-
営業利益	1,443	<b>606</b>	△837	△58.0%
金融損益	25	<b>662</b>	637	-
(うち為替差損益)	(60)	<b>(821)</b>	(762)	-
法人所得税費用	△390	△ <b>537</b>	△147	-
非支配持分損益	△189	<b>80</b>	269	-
親会社の所有者に帰属する四半期利益	889	<b>811</b>	△78	△8.8%
ROE	8.5%	<b>6.2%</b>		
平均為替レート (円/USD)	109.81	<b>134.03</b>		
ナフサ価格 (円/KL)	50,600	<b>83,600</b>		
海外売上比率	67.1%	<b>70.4%</b>		

# セグメント別売上収益

単位:億円

	21年度 2Q	22年度 2Q	増減	増減率	売価差	数量差	邦貨換算差
エッセンシャルケミカルズ	3,995	<b>4,673</b>	678	17.0%	455	△221	444
エネルギー・機能材料	1,485	<b>1,735</b>	250	16.9%	255	△58	53
情報電子化学	2,277	<b>2,222</b>	△55	△2.4%	△50	△374	370
健康・農業関連事業	2,094	<b>2,939</b>	845	40.3%	265	179	400
医薬品	3,096	<b>3,344</b>	249	8.0%	△60	△79	388
その他	306	<b>372</b>	66	21.7%	0	66	0
合計	13,252	<b>15,286</b>	2,034	15.3%	865	△487	1,656

## 増減分析 (全社計)

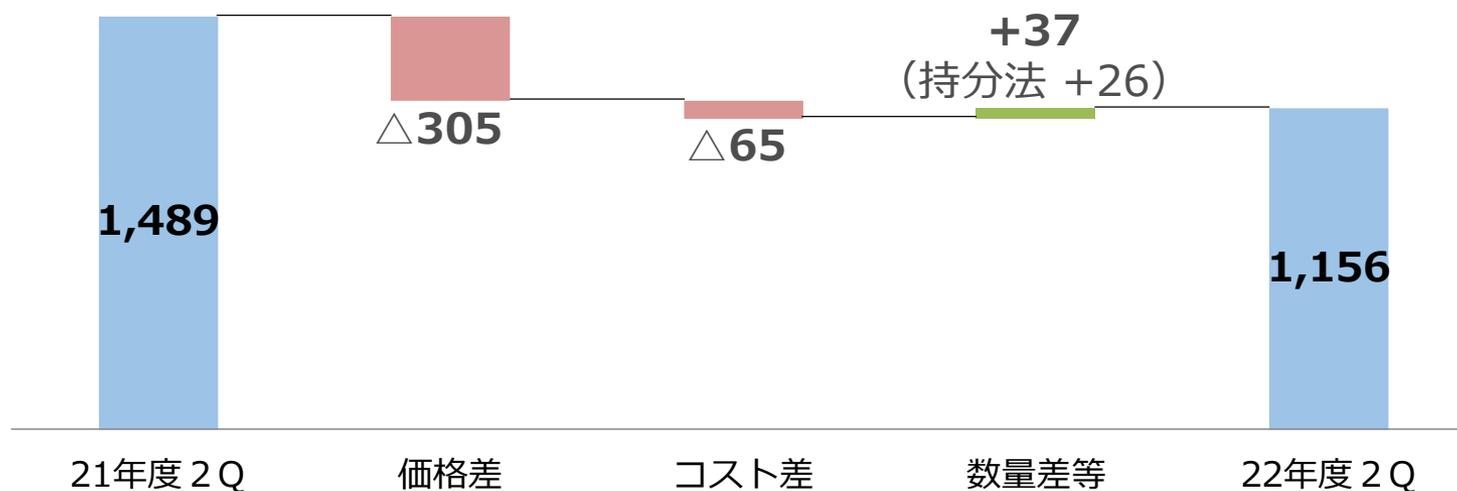


# セグメント別コア営業利益

単位:億円

	21年度2Q	22年度2Q	増減	価格差	コスト差	数量差等
エッセンシャルケミカルズ	420	<b>233</b>	△188	△165	10	△33
エネルギー・機能材料	126	<b>134</b>	9	△10	△15	34
情報電子化学	295	<b>264</b>	△31	△70	25	14
健康・農業関連事業	185	<b>363</b>	179	0	△40	219
医薬品	500	<b>252</b>	△248	△60	△45	△143
その他 全社費用等	△37	<b>△90</b>	△54	0	0	△54
合計	1,489	<b>1,156</b>	△333	△305	△65	37

## 増減分析 (全社計)



**22年度第2四半期コア営業利益 233億円 (前年同期比△188億円)**



**価格差**

合成樹脂やメタアクリル、各種工業薬品等は原料・燃料価格の上昇に対し販売価格への転嫁が追いつかず交易条件が悪化

**数量差等**

ペトロ・ラービグ社の業績改善の一方で、自動車用途を中心に需要が落ち込んだことにより出荷が減少

## 22年度第2四半期コア営業利益 134億円 (前年同期比+9億円)



<b>価格差</b>	<p>アルミニウムや正極材料は市況上昇に伴い交易条件が改善 一方でレゾルシンや合成ゴム等は原料・燃料価格の上昇に伴い交易条件が悪化</p>
<b>数量差等</b>	<p>リチウムイオン二次電池用セパレータの出荷が堅調に推移するとともに、 円安により輸出手取りが増加</p>

## 22年度第2四半期コア営業利益 264億円 (前年同期比△31億円)



<b>価格差</b>	<div style="border: 1px solid #f4a460; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;"><b>ディスプレイ</b></div> 偏光フィルム、タッチセンサーパネルの売価下落
<b>数量差等</b>	<div style="border: 1px solid #f4a460; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;"><b>ディスプレイ</b></div> 巣ごもり需要一巡・インフレによる消費マインドの悪化等により出荷が減少
	<div style="border: 1px solid #f4a460; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;"><b>半導体</b></div> 需要の伸長に伴い高純度ケミカルやフォトレジストの出荷増加
	<div style="border: 1px solid #f4a460; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;"><b>全体</b></div> 円安による輸出手取り増加・邦貨換算差益

22年度第2四半期コア営業利益 363億円 (前年同期比+179億円)



価格差	農薬	南米におけるジェネリック品の売価上昇に伴い交易条件が改善
	メチオニン	市況上昇の一方で、原料・燃料価格の上昇により交易条件が悪化
コスト差	農薬	INDIFLIN®垂直立ち上げや新規パイプライン開発費など、事業拡大に伴う経費増加
数量差等	農薬	南米およびインドで出荷が増加
	全体	円安による輸出手取り増加・邦貨換算差益

**22年度第2四半期コア営業利益 252億円 (前年同期比△248億円)**



<b>価格差</b>	日本国内における薬価改定の影響により売価が下落
<b>コスト差</b>	スミトバント社グループにおいて、オルゴビクスやジェムテサ等の拡販に伴い、販売費及び一般管理費が増加
<b>数量差等</b>	北米でのラツータやオルゴビクス、ジェムテサ等の売上伸長に加え、オルゴビクスの欧州における販売ライセンス契約等による一時金を収益計上 一方で前年同期には共同開発・販売提携契約による一時金を計上

単位:億円

	21年度2Q	22年度2Q	増減
減損損失	△16	△545	△529
事業構造改善費用	△30	△84	△54
固定資産売却益	2	35	34
条件付対価に係る公正価値変動	△1	13	14
その他	△0	31	31
非経常項目計	△46	△551	△504

単位:億円

	22.3月末	22.9月末	増減
流動資産	18,126	<b>21,405</b>	3,278
現金及び現金同等物	3,654	<b>4,860</b>	1,206
営業債権及びその他の債権	7,204	<b>7,385</b>	180
棚卸資産	6,514	<b>8,052</b>	1,539
その他	754	<b>1,108</b>	354
非流動資産	24,955	<b>25,416</b>	460
有形固定資産	8,230	<b>8,558</b>	328
のれん及び無形資産	7,156	<b>7,514</b>	358
その他	9,569	<b>9,344</b>	△225
資産合計	43,082	<b>46,820</b>	3,739

	22.3月末	22.9月末	増減
負債	26,062	<b>27,934</b>	1,872
営業債務及びその他の債務	5,516	<b>6,353</b>	838
有利子負債	13,505	<b>13,929</b>	424
その他	7,041	<b>7,652</b>	611
資本	17,020	<b>18,887</b>	1,867
株主資本	10,828	<b>11,474</b>	646
その他の資本の構成要素	1,353	<b>2,321</b>	968
非支配持分	4,839	<b>5,092</b>	253
負債及び資本合計	43,082	<b>46,820</b>	3,739
親会社所有者帰属持分比率	28.3%	<b>29.5%</b>	1.2%
D/Eレシオ(倍)	0.8	<b>0.7</b>	△0.1

単位:億円

	21年度 2Q	22年度 2Q	増減
営業キャッシュ・フロー	772	<b>835</b>	63
投資キャッシュ・フロー	△652	<b>156</b>	807
フリー・キャッシュ・フロー	120	<b>991</b>	870
財務キャッシュ・フロー	△271	△ <b>247</b>	25
その他	10	<b>462</b>	452
現金及び現金同等物の増減	△141	<b>1,206</b>	1,347
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,468	<b>4,860</b>	1,392

## II. 2022年度予想

## 経済情勢

- 原燃料価格の高止まりや、各国政策金利引き上げによる景気後退の懸念あり

## 上期⇒下期の事業環境の変化

石化・原料市況	ラービグは石油精製製品の需給緩和を見込む	 → 
自動車	半導体不足に伴って低調であった生産の回復を期待	 → 
ディスプレイ	パネルの在庫調整期間の長期化により、ディスプレイ関連需要は大幅減少	 → 
半導体	市場の拡大を想定も、一部のメモリー分野で陰り有り	 → 
農薬	南米における新製品の本格販売開始 北米、日本の需要期に期待	 → 
メチオニン	原料価格高止まりにより、厳しい事業環境	 → 
医薬品	ラツーダのLOEを迎えるが、新製品の拡販に注力	 → 

# 業績予想修正（通期）

単位:億円

	前回予想	今回予想	増減	増減率
売上収益	31,200	<b>31,800</b>	600	1.9%
コア営業利益	2,000	<b>1,900</b>	△100	△5.0%
（非経常項目）	(△200)	<b>(△750)</b>	(△550)	-
営業利益	1,800	<b>1,150</b>	△650	△36.1%
親会社の所有者に帰属する当期利益	1,250	<b>1,050</b>	△200	△16.0%
ROE	10.0%	<b>8.1%</b>		
平均為替レート（円/USD）	125.00	<b>137.02</b> (下期 140.00)		
ナフサ価格（円/KL）	80,000	<b>79,300</b> (下期 75,000)		
配当金	中間	12円	<b>12円</b>	
	期末	12円	<b>12円</b>	
	年間	24円	<b>24円</b>	

# セグメント別売上収益・コア営業利益予想（通期）

19

単位:億円

	売上収益			コア営業利益		
	前回予想	今回予想	増減	前回予想	今回予想	増減
エッセンシャルケミカルズ	11,200	<b>9,600</b>	△1,600	410	<b>0</b>	△410
エネルギー・機能材料	3,400	<b>3,900</b>	500	180	<b>200</b>	20
情報電子化学	4,800	<b>4,650</b>	△150	610	<b>510</b>	△100
健康・農業関連事業	5,400	<b>6,450</b>	1,050	475	<b>770</b>	295
医薬品	5,800	<b>6,300</b>	500	330	<b>360</b>	30
その他・全社費用等	600	<b>900</b>	300	△5	<b>60</b>	65
合計	31,200	<b>31,800</b>	600	2,000	<b>1,900</b>	△100

# (参考資料)

単位:億円

	21年度2Q	22年度2Q	増減
設備投資	510	<b>691</b>	180
減価償却費	777	<b>858</b>	81
研究費	838	<b>934</b>	97
期末人員 (人)	34,973	<b>34,654</b>	△319

単位:億円

	21年度2Q	22年度2Q	増減
エッセンシャルケミカルズ	102	<b>155</b>	53
エネルギー・機能材料	118	<b>117</b>	△1
情報電子化学	61	<b>134</b>	73
健康・農業関連事業	85	<b>131</b>	46
医薬品	85	<b>65</b>	△21
その他 全社費用等	59	<b>90</b>	31
合計	510	<b>691</b>	180

単位:億円

	21年度2Q	22年度2Q	増減
エッセンシャルケミカルズ	134	<b>145</b>	10
エネルギー・機能材料	94	<b>94</b>	△0
情報電子化学	138	<b>137</b>	△1
健康・農業関連事業	134	<b>143</b>	9
医薬品	196	<b>237</b>	42
その他 全社費用等	81	<b>103</b>	21
合計	777	<b>858</b>	81

単位:億円

	21年度2Q	22年度2Q	増減
エッセンシャルケミカルズ	34	<b>35</b>	1
エネルギー・機能材料	38	<b>44</b>	5
情報電子化学	96	<b>98</b>	2
健康・農業関連事業	122	<b>145</b>	24
医薬品	469	<b>518</b>	49
その他 全社費用等	79	<b>94</b>	16
合計	838	<b>934</b>	97

# セグメント別売上収益 (四半期推移)

単位:億円

	21年度				22年度		22年度	
	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	上期実績	下期予想
エッセンシャルケミカルズ	1,995	2,000	2,255	2,176	2,386	2,287	4,673	4,927
エネルギー・機能材料	744	741	782	897	864	871	1,735	2,165
情報電子化学	1,093	1,184	1,244	1,217	1,147	1,075	2,222	2,428
健康・農業関連事業	1,031	1,064	1,215	1,428	1,526	1,413	2,939	3,511
医薬品	1,392	1,704	1,467	1,354	1,677	1,667	3,344	2,956
その他	136	170	164	203	142	230	372	528
合計	6,390	6,862	7,127	7,274	7,741	7,544	15,286	16,514

# セグメント別コア営業利益（四半期推移）

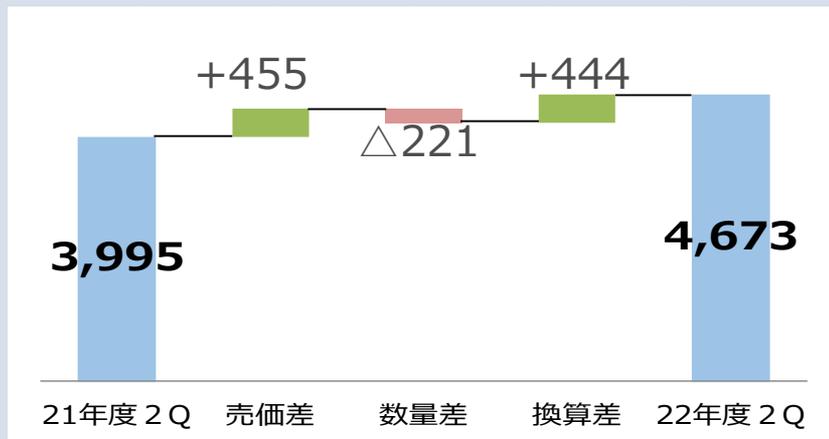
単位:億円

	21年度				22年度		22年度	
	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	上期実績	下期予想
エッセンシャルケミカルズ	238	182	100	15	100	133	233	△233
エネルギー・機能材料	67	59	61	14	66	68	134	66
情報電子化学	135	160	164	119	158	107	264	246
健康・農業関連事業	103	82	94	144	219	144	363	407
医薬品	96	403	125	△7	141	111	252	108
その他 全社費用等	△23	△14	25	6	△43	△48	△90	150
合計	617	872	568	291	641	515	1,156	744

## セグメント別売上収益増減分析

## エッセンシャルケミカルズセグメント

## 売上収益増減



4,673億円 (前年同期比+678億円)

売価差  
+455億円

- 市況上昇

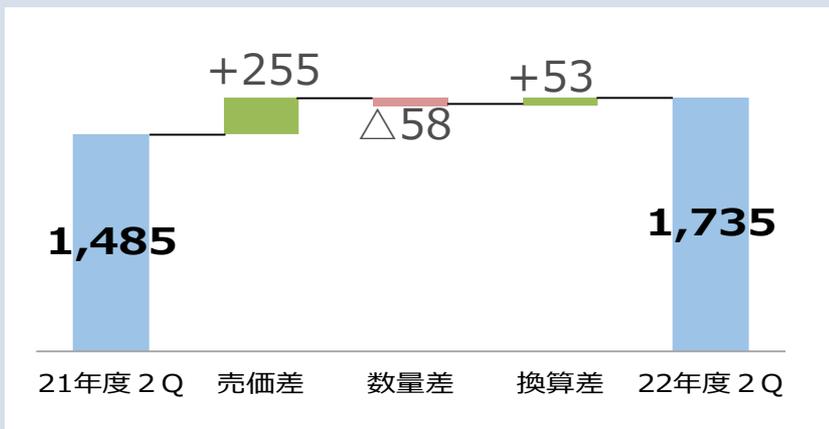
数量差  
△221億円

- 自動車用途等出荷減 (合成樹脂等)

換算差  
+444億円

## エネルギー・機能材料セグメント

## 売上収益増減



1,735億円 (前年同期比+250億円)

売価差  
+255億円

- アルミウム売価上昇
- 正極材料売価上昇

数量差  
△58億円

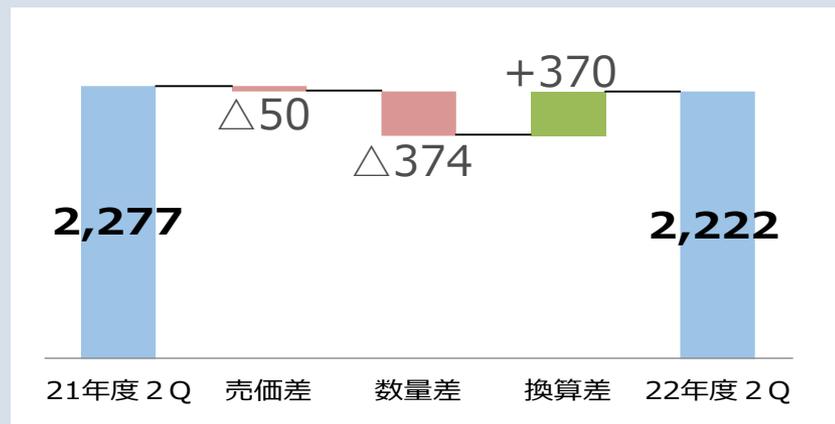
- 自動車用途等出荷減 (アルミウム・レジジン等)
- リチウムイオン二次電池用セパレータ出荷増加

換算差  
+53億円

## セグメント別売上収益増減分析

## 情報電子化学セグメント

## 売上収益増減



2,222億円 (前年同期比△55億円)

売価差  
△50億円

- 偏光フィルム売価下落

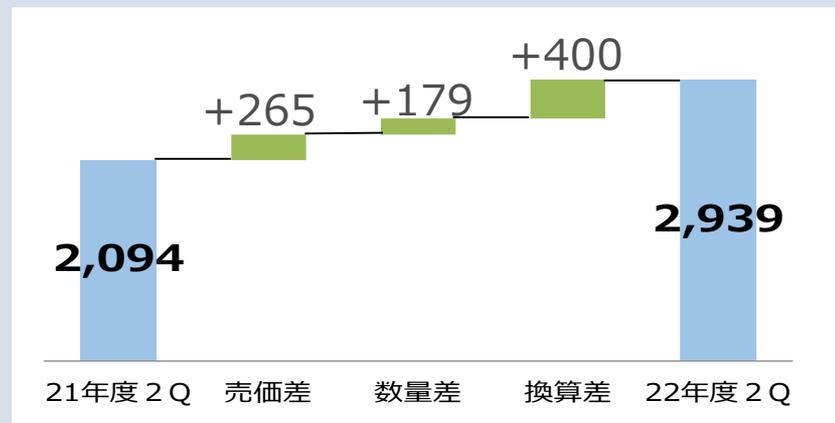
数量差  
△374億円

- ディスプレイ関連材料出荷減少
- 半導体プロセス材料出荷増加

換算差  
+370億円

## 健康・農業関連事業セグメント

## 売上収益増減



2,939億円 (前年同期比+845億円)

売価差  
+265億円

- 南米ジェネリック品売価上昇
- メチオニン市況上昇

数量差  
+179億円

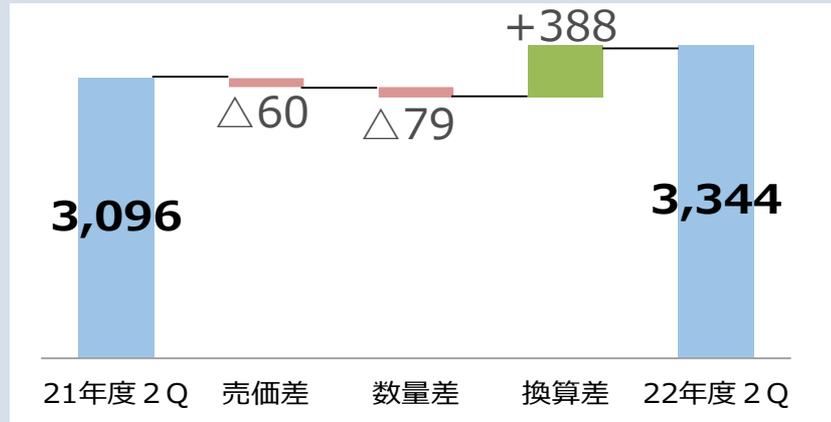
- 南米・インドにおける農業出荷増加

換算差  
+400億円

## セグメント別売上収益増減分析

## 医薬品セグメント

## 売上収益増減



**3,344億円 (前年同期比+249億円)**

**売価差**  
△60億円

- 国内薬価改定

**数量差**  
△79億円

- 前年同期には共同開発・販売提携契約による一時金を計上
- 北米ラツータ・オルゴビクス・ジェムテサ等出荷増加
- オルゴビクス欧州販売ライセンス契約等による一時金の収益計上

**換算差**  
+388億円

外貨ベース

会社名	売上収益		利益動向
	21年度 2 Q	22年度 2 Q	
ザ・ポリオレフィン・カンパニー (シンガポール) (百万USD)	600	<b>601</b>	↘ 交易条件悪化
ペトロケミカル・コーポレーション・オブ・シンガポール (百万USD)	1,307	<b>1,432</b>	↘ 交易条件悪化
ラービグ・リファイニング・アンド・ペトロケミカル・カンパニー (百万SAR)	21,245	<b>32,502</b>	↗ 石油精製マージンの改善
東友ファインケム (億KRW)	12,426	<b>11,061</b>	↘ ディ스플레이関連材料販売数量減少による減益
ベラント U.S.A. (連結ベース) (百万USD)	352	<b>346</b>	↘ 経費の計画的な執行による減益

単位:億円

	21年度2Q	22年度2Q	増減	主な差異要因
日本	295	<b>310</b>	15	
北米	228	<b>261</b>	33	・ 邦貨換算差
中南米	551	<b>1,152</b>	601	・ 邦貨換算差 ・ 出荷数量増加
アジア (インド含む)	270	<b>372</b>	102	・ 邦貨換算差 ・ インドにおける出荷数量増加
欧州その他	92	<b>106</b>	14	・ 邦貨換算差 ・ 欧州における出荷増加
合計	1,436	<b>2,201</b>	765	